



# さくらぐみだよ!

鈴鹿市立国府幼稚園

2024年3月19日

No.15 最終号

遊んでいると少し汗ばむくらい温かく、すっかり春になりましたね!タンポポや菜の花、スイセンが咲いている様子を見て、図鑑を片手に「これは春の花だ!春が近づいてきてるよ」と嬉しそうにしていました。子どもたちは、もうすぐうめ組さんになるというワクワクした気持ちと、今のうめ組さんが卒園してすぐには会えなくなってしまうという寂し気持ちと、どちらも気持ちも感じているようです。

一年を通して様々なことに挑戦し、発見して考えてきた子どもたち。さくら組最後の子どもたちの様子を紹介します。



## ●ひなまつり

みんなでお内裏様と、お雛様を作りました。折り紙で着物を作り、顔はペンで書きました。出来上がったお雛様を見て「かわいい!お姫様みたい!」と満足そうでした。その後、みんなでひな壇に座って写真を取りました。素敵にできたね。

1日にひな祭りパーティーをしました。ひなあられと白酒の代わりにカルピスをいただきました。楽しかったね!



## ●アルバム制作 ありがとうございました！

先日行っていただいたアルバム制作、お忙しい中ありがとうございました。お家の人はアルバムに写真を貼っているという話を子どもたちにしたところ「ふーん」となんのことだか、分かっていないようだったので様子を見に行かせてもらいました。お家の方が一生懸命自分たちのために作ってくれているということが分かり照れくさい、でも嬉しいという子どもたちの姿が印象的でした。次の日、「アルバム見たよ！自分の写真がいっぱいで嬉しかった！」「可愛かった！」と子どもたちから教えてくれました。



## ●降園の挨拶 もうすぐうめ組さんだね

朝の登園時間が早くなったり、給食後に掃き掃除をしたりと、かっこいいうめ組さんになるためにお家の方にご協力いただきながら、子どもたちも頑張っています。降園の挨拶もうめ組さんと同じように外で行っています。初めはドキドキしていた子どもたちですが、挨拶が園中に届くぐらい大きな声で言っています。

遊びの中でも子どもたちの成長を感じる場面があります。ルールや順番を決めるために教師が声をかけなくても自分たちで話し合ったり、細かいイメージも言葉で伝え合いながら遊んだりする姿が増えています。



## ●金魚が動かない ～生き物の死を通して、自分たちなりに感じ考える姿から～

2月末のある日、金魚がお腹を上にしてひっくり返っていました。「大丈夫かな?」「頑張れ」とみんなで心配していました。月曜日登園するとすぐに「金魚は?」と聞いてきました。金魚を見せると、「動いてないね」「死んでるみたい」というので「そうだよ。死んでしまったみたいなの。」という「金魚かわいそう」「白色の金魚心配してるよ」ともう一匹の金魚のことも気にしていました。

その後、死んでしまった金魚をどうするかみんなで話し合いました。「かわいそうだから、そのままにしておく?」「いいじゃん!」「腐ってしまうかも」という声に、「海に流す?」「魚に食べられてしまいそう」「川は?」「流れてっちゃうよ」「埋める?」「いいかも」と、どんどんみんなから声があがり、土に埋めることになりました。「みんなが育ててるビオラをあげよう!」「いつもはしわしわのビオラを取るけど今日は綺麗なやつね!(枯れている花は水やりの時に子どもたちが取っています。)」「金魚へのプレゼントだもんね」と、花を金魚のためにあげようとするやさしい声もありました。

埋める場所も踏まれないように端が良いという話になり、イチヨウの木の根元にみんなで穴を掘り、埋めました。ビオラも摘んできてお墓の周りに置きました。「お花あるから寂しくないかな?」とたくさんお花を摘み、金魚にあげていました。「給食食べ終わったら、見に行こう!」と午後走って見に行く姿が見られました。



次の日、朝の準備が終わるとすぐに「金魚のお墓見てくる!」と見に行く子どもたち。帰ってくると、枯れたビオラを手にとたくさん持っていました。「どうしたの?」と聞くと、「花が全部枯れてたんだよ。新しい花を持って行こうと思って」と新しいビオラを摘んでお墓に持って行く姿がありました。

生き物について考え、どうしてあげたいか話し合い、寂しくないようにこうしてあげたいと自分で考え行動できる子どもたちが本当に素敵だなと思う一場面でした。





## 修了おめでとうございます！ 一年間ありがとうございました



振り返ってみると、子どもたちの成長をたくさん感じられる一年だったと思っています。入園当初は、泣いている子、やりたいことはあるけど出せない子、自分のやりたい気持ちを前面に出している子など様々な子どもたちの姿がありました。園が楽しい場所、安心できる場所であることを知ってもらいたい。自分の力や気持ちを出したり友だちの気持ちを知ったりすることって楽しいなと感じてもらいたいと考えながら子どもたちと過ごしてきました。“みんなと一緒に楽しい”と子どもたちが感じてくれていたらいいなと思っています。子どもたちが毎日楽しく園生活を送ることができたのは、子どもたちの気持ちをいつも支えて、寄り添ってくれる保護者の皆様の存在があったからだと思います。保護者の皆様、子どもたちを温かく見守っていただき、毎日園へ送り出していただいて本当にありがとうございました。

至らないところもたくさんあったと思いますが、保護者の皆様のご理解と、ご協力があり、さくら組の担任として、楽しい一年を過ごさせていただきました。本当にありがとうございました。

